22. 出血性放射線膀胱炎に対する高気圧酸素療法

湯佐祚子[*1)]　秦野　直[*2)]

[*1)]琉球大学医学部麻酔科学講座，高気圧治療部
[*2)]　同　泌尿器科学講座

【目的】婦人科領域での悪性腫瘍に対する放射線療法後の副作用である出血性膀胱炎に対する高気圧酸素療法（HBO）の効果を検討したので報告する。

【対象及び方法】1986年より現在までに当院泌尿器科で放射線出血性膀胱炎と診断された血尿を主訴とする16症例にHBOを行っているが，治療途中で中断した3症例を除く13例を対象とした。年齢は46～81歳，原疾患は子宮頸癌11例と外陰癌，膣癌各々1例で，症状は血尿の他，頻尿，排尿時痛，膀胱タンポナーデ，尿閉などであった。総放射線量は50～90Gy，照射より発症までの期間は直後より13年，HBOまでの期間は1ヶ月より20年で，5例では放射線腸炎，直腸炎を合併していた。HBOは2－2.4ATA，60分，5～6回/週で20～117回施行した。

【結果】血尿はHBO終了直後では全て消失し，その他の症状も軽快した。しかし癌が残存していた1症例は20回のHBO後20日で血尿が再発し，HBOは無効であった。HBO後の経過は不明2例，8例では2月～10年間血尿は再発していないが，3症例では急性腎盂腎炎，腎不全，外陰癌再発で各々HBO終了1月，5月，1.5年後に死亡していた。

【考察及び結論】1985年のWissらの報告以来，放射線膀胱炎に対するHBOの有効性につき報告がなされている。我々の症例では血尿消失時点での膀胱鏡所見では著変は見られなかったが，その後1年前後の所見では改善が見られている。今回の症例で血尿の消失が得られなかった1症例は癌残存例であり，また癌再発中にHBOを施行した1症例では出血により死亡していることから，癌存在時のHBOは対象外とすべきと考える。しかし最近の報告の如く，放射線膀胱炎での血尿の消失にはHBOは有効な手段と考えられた。

23. 放射線膀胱炎に対する高圧酸素療法

増尾富士雄[*1)]　守田敏洋[*1)]　木谷泰治[*2)]
後藤文夫[*1)]　渡辺久志[*3)]

[*1)]群馬大学医学部麻酔蘇生学教室
[*2)]　同　附属病院中央手術部
[*3)]　同　附属病院高気圧酸素治療室

放射線膀胱炎12例（原疾患：子宮頸癌11例，膣癌1例）に対し高圧酸素療法（以下HBO）を施行したので報告する。

【方法】放射線単独治療は4例，手術と放射線療法を併用した症例は8例であった。平均年齢59歳，放射線治療開始より膀胱炎と診断されるまでの平均期間7年，平均照射量71Gy，またHBO施行後平均観察期間は27月であった。12名の放射線膀胱炎患者を2群（6名ずつ）に分け第1種装置（100%酸素2ATA 2時間），もしくは，第2種装置（空気加圧2ATA 2時間）を使用し，週4－5回，計10－50回HBO療法を施行した。

【結果】重症例（頻回輸血：4例）中，2例は輸血の必要がなくなり，1例は輸血回数が激減した。1例はHBO療法に反応しなかった。中症例（少量輸血：6例）はすべて輸血の必要がなくなった。この中に放射線腸炎が合併した例が2例含まれるが，下血も軽快した。軽症例（肉眼的血尿：2例）は顕微鏡的血尿になった。大部分の患者では，排尿時痛，腹痛，頻尿などの臨床症状も軽減し，食欲も増加した。第1種装置，第2種装置間に効果に差は見られなかった。7名に膀胱鏡検査を定期的に施行した。HBO療法10－20回で放射線膀胱炎の特徴的所見（血管拡張，粘膜発赤）は著しく軽減した。また，おもに膀胱容量増加目的でHBOを施行した4例は手術に起因する高度な解剖学的異常（膀胱尿管逆流現象，小腸膣瘻および膀胱膣瘻）を伴っており，膀胱容量の増加は軽微であった。

【考察】膀胱容量の増加効果は期待したほどではなかったが，頻尿，腹痛などの臨床症状は改善した。HBO療法は放射線膀胱炎による出血だけでなく，膀胱機能改善目的でも試みて良い治療法